

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【有田振興局】 講師によるせん定の実演
～有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会～

令和7年2月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

は じ め に

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-2
1. 重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】 ～天敵導入現地検討会を開催～	
2. 和海地方4Hクラブ連絡協議会定例会	
3. 「匠の技 伝道師」みかんせん定研修会	
4. 新品種‘あおさん’導入に向けて	
II 那賀振興局	3-4
1. 紀の川市環境保全型農業グループが学童農園を支援	
2. 紀の川市オーガニックビレッジ準備会が先進地研修を開催	
3. 小学校で地場産農産物の給食交流会を開催	
4. 那賀地方農業士会県外研修会を開催	
III 伊都振興局	5-6
1. 果樹カメムシ類越冬量調査の実施	
2. 伊都地方農業士連絡協議会県外視察研修	
3. 新規就農者研修会(農薬)の実施	
4. 伊都管内小学校でみそづくり伝承活動を実施	
IV 有田振興局	7-8
1. 令和6年度有田地方農業者団体連絡協議会の研修会を開催	
2. 有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会を開催	
3. 有田市糸我地区「第33回いも茶がゆと餅つきの集い」開催支援	
4. Iターン就農者及び就農予定者研修会を開催	
V 日高振興局	9-10
1. 日高川町4Hクラブが町農業祭で焼いもを販売	
2. 日高地方農業士会女性部会現地研修会を開催	
3. うめのムカデ整枝研修会を実施	
4. 高校3年生へ花束を配付～花育活動の実施～	
VI 西牟婁振興局	11-12
1. 西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会が県外視察研修を実施	
2. 稲成いちご研究会が先進地研修を実施	
3. アグリビギナー等技術経営研修を実施	

Ⅶ 東牟婁振興局 **13**

1. 重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】
～みくまの産地協議会が第3回U I ターン就農相談フェアに出展～

Ⅷ 農林大学校 **14**

1. 卒業論文発表会を開催
2. 令和6年度卒業式

Ⅸ 農林大学校就農支援センター **15-16**

1. 令和6年度社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）修了式
2. 技術修得研修（第2班）の営農計画発表会／閉講式
3. 第3回U I ターン就農相談フェアを開催

X 経営支援課 **17**

1. 令和6年度農業士・林業士・漁業士認定式及び感謝状贈呈式を実施
2. むらとくらしを考える会議を開催

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】 ～天敵導入現地検討会を開催～

農業水産振興課では、新規参入したいちご農家の安定生産を実現し、産地化につなげるべく普及活動を行っている。そのテーマの1つである持続的な農業の推進のため、天敵導入実証ほを設置し、調査及びデータ収集を行った。その結果をもとに2月25日に導入ほ場で天敵導入現地検討会を開催し、6名の農家が出席した。

検討会では、農業水産振興課の佐々岡普及指導員から天敵の仕組みや導入方法、実際の効果を説明し、導入農家から取組んだ感想などを話してもらった。その後いちご株での天敵の状況を見ながら農家同士で活発な意見交換を行った。参加者へのアンケートでは、全員が今後この天敵を導入してみたいという意見であった。

今後も勉強会を開催するなどしていちご農家同士が情報共有し、管内いちご農家全体の栽培スキルを底上げできるように支援していきたい。



天敵の基本情報の説明

2. 和海地方4Hクラブ連絡協議会定例会

和海地方4Hクラブ連絡協議会（会長：船橋遼司氏）では、月に一度定例会を開催し、各種活動の打ち合わせやクラブ員同士の情報交換などを行っている。今年度は定例会で協議した結果、海南市のイベント「KAINANハッピーアワー」や東京の展示会「FOOD STYLE JAPAN 2024」に出店した。

2月20日に開催した定例会ではクラブ員10名の参加があり、和歌山県青年農業者会議の振り返りや令和7年度の役員改選について協議した。また現在、和海地方では自身の農業経営に関する発表会を企画しており、開催に向けた準備を進めている。

クラブ員から「集まる機会を有効に使い、円滑に活動を進めていきたい」との声もあり、当課では今後もサポートを続けていく。



協議の様子

3. 「匠の技 伝道師」 みかんせん定研修会

2月26日、海南市下津町内の温州みかん園地において「匠の技 伝道師」橋詰 孝氏による研修会を開催し、生産者13名の参加があった。

本研修会は主要な作業時期別に開催しており、今回は参加者からの要望が多い、せん定について行った。研修会では農業水産振興課の萩平普及指導員から今作の気象条件とみかんの生育状況を解説したあと、橋詰氏から実演を交えてせん定技術の説明が行われた。

橋詰氏からは、「毎年芽を出させるつもりでせん定すれば、隔年結果はしない」との説明があり、参加者からも「裏年の木はどう切ったら良いか」など熱心に質問が出された。

「匠の技 伝道師」の研修会は本年度4年が経過したが、参加者から継続要望もあり、次年度も開催を計画していく。



せん定の実演と説明

4. 新品種‘あおさん’導入に向けて

令和6年3月に温州みかんの‘あおさん’が品種登録された。農業水産振興課では貯蔵産地である海草地域での‘あおさん’の適応性を調査している。

収穫期を迎える今回は、収穫の適期を把握するため、果実成熟期から収穫時及び貯蔵中の果実品質を定期的に調査した。

収穫を12月中旬と1月中旬の2回に分け、それぞれ貯蔵を行った結果、12月中旬に収穫し貯蔵した果実の糖度は上昇せず減酸だけ認められた。一方、1月中旬の収穫果は12月以降も樹上での糖度上昇があり、貯蔵中も減酸した。浮き皮はいずれの収穫時期とも皆無だった。

なお、12月から1月にかけて収穫することから、鳥害が確認されたため袋掛けが必要となった。

今回の現地試験から、「着色などを踏まえ、貯蔵する場合の収穫適期はいつだろうか?」、「手間の少ない鳥害対策をどのようにすれば良いだろうか?」など疑問が出てきた。まだまだ検討を重ねる必要があると考えており、産地への円滑な導入に向けてこれからも調査や検討を重ねていく。



調査用果実に袋掛け



果実品質調査

Ⅱ 那賀振興局

1. 紀の川市環境保全型農業グループが学童農園を支援

紀の川市環境保全型農業グループ（会長：小林 元氏）では食育と地域交流活動の一環として、紀の川市立川原小学校の学童農園で運営支援を平成 19 年から続けている。

2 月 7 日には 1～2 年生のじゃがいもと、5～6 年生の玉ねぎの植え付け支援を 3 名のグループ員が行った。

3 月にはにんじんの種まき、6 月にはこれらの野菜を収穫、カレーや肉じゃがに調理され、粉河学校給食センター管内の小学校で提供される予定である。

当日は寒い日だったが、児童たちは「早く食べたい」、「楽しい」と言いながら元気に野菜を植え付けていた。



ジャガイモ・玉ねぎを植える児童

2. 紀の川市オーガニックビレッジ準備会が先進地研修を開催

2 月 27 日、紀の川市オーガニックビレッジ準備会（会長：関 弘和氏）では、先進地研修を実施し、生産者や関係機関など 13 名が参加した。

令和 5 年にオーガニックビレッジ宣言をした京都府亀岡市を訪問し、市役所担当者から宣言に至るまでの経緯や学校給食への取組、どのようにして有機農業を増やしていくのかなど今後の取組について説明を受けた。

その後、亀岡オーガニック農業スクールを訪問し、校長の中村 新氏から、スクールの概要や卒業生への支援について説明を受けた。

今後、スクールの卒業生は、自分で農地を確保して就農する以外に、スクールを運営する「(株)ビオかめおか」が借りている農地で、作業受託という形で就農する方法を検討している。

参加者は熱心に質問し、有機農業への関心の高さが感じられた。



亀岡市の担当者から説明を受ける参加者



中村氏から圃場の説明を聞く参加者

3. 小学校で地場産農産物の給食交流会を開催

紀の川市食育推進会議は、地場産農産物について学ぶ授業を市内の小学校で実施しており、2月13日に紀の川市立長田小学校、2月17日に紀の川市立中貴志小学校で給食交流会を開催した。

メニューは、11月に生産者が地場産農産物についての授業を行い、その後の授業で児童が考えた。

交流会では、児童と生産者が一緒に食べ、授業を振り返りながら交流した。

児童からは「農業をしたきっかけは？」や「年収は？」などの質問もあり、農業に興味を持つ機会となった。



児童とともに給食を食べる生産者

4. 那賀地方農業士会県外研修会を開催

2月27日、農業士の資質向上と地域農業のリーダーとしての活動や、農業後継者の育成指導に取り組んでいる、那賀地方農業士会(会長:山本佳彦氏)は、兵庫県淡路市の(株)池上農園での県外研修会を開催した。

(株)池上農園は、淡路市において竹の有機資材を使用したたまねぎの特別栽培に取り組んでいる。大規模(栽培面積14.2ha)なたまねぎ専作経営で、補助事業を活用した冷蔵設備を整備し、小売業者等に周年で直接販売を行っている。生産現場での農作業は、殆ど技能実習生が担っていた。

会員からは、栽培技術だけでなく、ほ場整備の方法や、補助金活用、資金繰りや雇用管理まで様々な課題について質問した。また、代表者が女性ということもあり、女性会員も積極的に質問していた。

今回の研修は、生産現場の研修と想定していたが、研修先の好意により経営全般の充実した研修となった。



みかん畑を園地改造した玉ねぎ畑



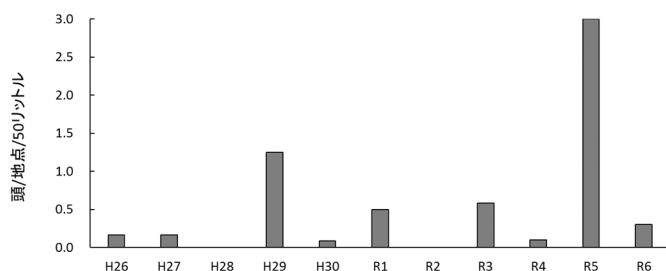
女性経営者と交流する女性会員

Ⅲ 伊都振興局

1. 果樹カメムシ類越冬量調査の実施

2月12日～28日、伊都地方農業振興協議会果樹病虫害防除対策会議（JA紀北かわかみ、橋本市、かつらぎ町、九度山町、農業共済、かき・もも研究所、伊都振興局）の関係者が、管内12地点で広葉樹の落ち葉を採集し、越冬中の果樹カメムシ類の種類や頭数を調査した。その結果、1地点あたりの越冬量は0.3頭となり、平年値の0.6頭（平成26年～令和5年の平均）と比べてやや少なかった（グラフ参照）。

越冬量が平年よりやや少なかったことから春～夏の発生量は多くない見込みだが、この春のスギ・ヒノキの花粉の飛散量が多いと見込まれるため、夏以後の新世代成虫の発生量に注意し、引き続き関係機関と連携しながら防除啓発を行っていく。



果樹カメムシ類越冬量の年次変動

2. 伊都地方農業士連絡協議会県外視察研修

2月13日、伊都地方農業士連絡協議会では大果大阪青果株式会社（大阪市福島区）および乾農園（大阪府富田林市）への県外視察研修を開催し、12名の伊都地方農業士が参加した。

大果大阪青果株式会社では、果樹部長から果樹販売の変遷と現在の柿販売の問題点と対策についてお話しをして頂き、特に中谷早生でのスマートフレッシュ処理（1-MCP）は必須であるということ、紀の川柿については将来性があるが、紀州てまりについては富有柿に代わるものでなければ将来性はないとの厳しい意見が聞かれた。また乾農園では、都市型農業における農業経営や地域ぐるみでの後継者育成の取組について説明して頂いた。乾農園では3人の子どもがいるが農業を継ぐ予定はなく、11人の従業員と共に2haの農地を管理している。地域の農地を守るため、周辺農家と協同して農業塾の運営に尽力し、後継者育成を行っているとのことであった。

今回の研修を通じて、栽培技術だけでなく、販売や後継者問題にも目を向けて取り組んで頂きたい。



乾農園代表 乾 裕佳氏のお話



乾農園のほ場見学

3. 新規就農者研修会(農薬)の実施

2月26日、伊都振興局農業水産振興課では、新規就農者及びJ A トレーニングファーム受講生を対象に農薬に関する研修会を開催し、6名の受講者が参加した。

本事業は、新規就農者の栽培技術の向上と新規就農者同士の交流を目的としている。

研修会では、農業水産振興課の山崎技師が農薬の基礎知識について講義を行い、農薬の種類、剤型、混用における注意点、希釈方法、処理方法などについて説明を行った。

参加者からは農薬の残効についてや、今年のカメムシの被害予想などの質問があった。

3月には柑橘に関する研修会を予定しており、今後とも新規就農者への支援を行っていく。



講義の様子

4. 伊都管内小学校でみそづくり伝承活動を実施

農業振興課は、昔から地域で作られている米みそづくりを後世に伝承し、地産地消教育に資するため、2月27日～28日に応其小学校の3年生53名を対象に、みそづくり体験を実施した。橋本市生活研究グループ連絡協議会員が講師となり、1日目は、水に漬けた大豆を煮、挽く作業を見学しつつ、みその種類やみそづくりに必要な材料、手順などの説明を行った。2日目は1日目に加工した大豆を米麴と混ぜ合わせ、団子状に丸めて容器につめる仕込みを行い、熟成までの管理方法や期間について説明を行った。

児童たちは「米麴って意外と甘い」、「材料を混ぜるのが楽しい」などの感想があがった。



みその材料を混ぜる作業



仕込み作業の見学

Ⅳ 有田振興局

1. 令和6年度 有田地方農業者団体連絡協議会の研修会を開催

2月14日、有田地方の農業士協議会、生活研究グループ連絡協議会および4Hクラブ連絡協議会の3団体が主催となり、有田振興局において「気候変動に向けた対応 熱帯植物・トロピカルフルーツの栽培について」をテーマに研修会を開催し、熱帯果樹に興味ある生産者や関係者約50名が参加した。

南九州大学の前田隆昭氏からは「熱帯植物、トロピカルフルーツについて」と題して、近年の気象変動による温州ミカンの浮皮、日焼け、着色遅延等の課題に対する代替品目の選択肢として、アボカド、パッションフルーツ、バナナ等の紹介や栽培技術の説明があった。

また、近畿大学の志水恒介氏からは「マンゴーについて」と題して、ハウスの温度管理、栽培技術および近大マンゴー「愛紅」等の説明があった。

参加者からは、県内でも栽培可能な温度帯や適応品種等に関する質問が行われた。

その後、近畿大学附属湯浅農場の先生方に農場内のマンゴーを中心とした熱帯果樹や柑橘類を案内していただき、参加者らは熱心に聞き入っていた。農業水産振興課では、引き続き協議会と連携し有田みかんを軸とした産地活性のための研修会を開催する。



南九州大学 前田氏、
近畿大学 志水氏の講演



近畿大学附属湯浅農場の見学

2. 有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会を開催

2月28日、有田管内で女性農業者と5年以内に就農した農業者を対象とした合同研修会を有田中央高校ほ場において開催した。22名の参加があり、匠の技 伝道師である佐原洋一氏を講師に招き、今春の着花予測や今後の樹形を見据えた温州みかんのせん定について実演も交えながら研修を行った。

参加者からは「講師が実際にせん定をしながら説明してくださったので、とても分かりやすかった。自園地でのせん定は、迷うことが多かったので大変参考になった」などの声が挙がった。参加者から活発な質問が途切れることなく続き、講師が丁寧に回答していた。

今年度の研修会は今回で終了であるが、当課では来年度も継続して新規就農者・女性農業者の技術習得支援を行っていく。



講師によるせん定の実演（中央：佐原氏）

3. 有田市糸我地区「第 33 回いも茶がゆと餅つきの集い」開催支援

2 月 11 日、糸我地区青少年育成会（会長：山崎光二氏）主催による「いも茶がゆと餅つきの集い」が開催された。当会では、毎年、地元の糸我小学校でアイガモ農法による米作りに取り組んでおり、収穫されたお米を使った当イベントは、地区の恒例行事となっている。

山で柴を集め、それを燃料にかまどで茶がゆを炊くという体験は、子どもたちに、食のありがたさだけでなく災害時に活かせる技術を伝えるために地区をあげて取り組まれている。農業水産振興課では、5 月の杣まきから今回のイベントまで指導を続けており、今回も課担当職員が参加した。

当日は糸我小学校の児童約 50 名が参加し、地区の中・高校生、老人クラブなどが多数ボランティアで参加、育成会を含めて大勢の大人がサポートした。子供たちは、かまど焚きや杵と臼を使った餅つきなど、なかなか経験できない貴重な体験に喜び、「電気もガスも使わず、茶粥やお餅を作るのは大変だったが、みんなで作った茶粥やお餅は本当においしかった」等の感想を述べていた。

当課では、引き続き、当会の食育事業を支援していく。



かまど焚きに挑戦する子供たち



餅つき体験

4. I ターン就農者及び就農予定者研修会を開催

県外から有田地域に移住され、就農されている方やこれから就農予定の方が増加傾向にある。これらの方々の交流を目的とした「I ターン就農者および就農予定者研修会」を、2 月 26 日に有田振興局で開催した(参加者 17 名)。

研修会では、当課職員 3 名から「農業関連補助事業について」の説明を行った。また、普及グループ大野主事から「モノを売るということ」の講演を行った。その後、情報交換会を行った。

出席者からは、「消費者に自分の商品に興味を持ってもらうにはPOPが重要」、「スーパーなどのPOPを参考にしてみる」、「I ターン同士の交流ができ、よい研修会だった」、「次回は地元農家と交流がしたい」との意見があり、好評であった。

農業水産振興課では、今後もこのような交流の場を設けて、有田地域の農業者の育成を図っていく。



研修会の様子

V 日高振興局

1. 日高川町4Hクラブが町農業祭で焼いもを販売

日高川町4Hクラブ（会長：瀬戸秀亮氏）は、2月11日に開催された第16回日高川町農業祭で焼いもを販売して来場者をもてなした。

農業祭は、新型コロナウイルス感染症が流行した令和2年から3年間休止されたが、1年前に会場を南山スポーツ公園に移して再開され、今回は2度目の開催であった。4Hクラブは、以前から焼いも販売を行ってきたが、今年は新会員3名を迎えて早朝の準備段階から和気あいあいと盛り上がっていた。焼いもは、町内産のさつまいもを使い、専用の石焼き器で焼き上げた本格派。当日は北風が冷たい一日だったこともあり、甘く熱々の焼いもを買い求める来場者は多く、用意した50kgは午後1時過ぎに完売した。

会員らは、お客からの「おいしい！」の言葉に笑みを浮かべつつ、販売に手ごたえを感じていた。



女性客と子供づれが多かった



お昼前後は大盛況

2. 日高地方農業士会女性部会現地研修会を開催

日高地方農業士会女性部会（部会長：片山綾子氏）では、女性農業士相互の研さんと親睦を図ることを目的に、毎年各市町持ち回りで現地研修会を行っている。

今年度は、2月17日に印南町で開催して15名が参加し、印南町地域農業士の西山久美子氏のミニトマト「赤糖房」栽培園地の視察のほか、株式会社いなみの里梅園を見学した。

西山氏のハウスでは、ハウス内の湿度や温度を携帯で確認できるなど、こまめな栽培管理がされており、参加者たちは感心していた。昼食を兼ねた交流会では、それぞれの近況が報告されるとともに、恒例の農産物の交換も行われ、楽しいひとときを過ごした。

農業水産振興課では、今後も女性部会活動を支援していく。



西山氏のトマトほ場



交流会

3. うめのムカデ整枝研修会を実施

2月17日、当課主催で、みなべ町内の4Hクラブ員等を対象に、うめの早期成園化及び省力化の技術であるムカデ整枝の研修会を開催し、8名の参加があった。

西牟婁振興局の竹中副主査に講師を依頼し、ムカデ整枝の仕立て方や、すでに普及している現地の状況について説明していただいた後、成木ほ場、幼木を誘引中のほ場を見学した。

参加者の中には、すでにムカデ整枝を導入している人もおり、現地を見学している際には、摘心処理を実施する際に意識することや、ムカデ整枝の植栽方法について、多くの質問があった。



ムカデ整枝の説明を行う竹中副主査



幼木園地の見学

4. 高校3年生へ花束を配付～花育活動の実施～

日高地方花き連合会（会長：中尾貴宏氏）では、花の魅力を伝え、地元の花き生産に対する関心を高めてもらうことを目的とした「花育活動」を行っており、2月28日、日高地方の高校の卒業生に花束を贈った。

御坊市と印南町の花き生産者から提供された約1,200本の切り花で花束を作り、日高高校、日高高校中津分校、紀央館高校、南部高校、南陵高校の卒業生に手渡した。

紀央館高校では、中尾会長が「地元を離れる人も、スターチスやカスミソウを見て地元を思い出してほしい」というメッセージを伝え、花束を贈呈した。卒業生からは、「地元の花に、さらに愛着が湧きました」といった声が聞かれた。



紀央館高校での花束贈呈式

VI 西牟婁振興局

1. 西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会が県外視察研修を実施

2月25日～26日、西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会（会長：小谷将之氏）の7名が県外視察研修を実施した。25日はチョーヤ（株）伊賀上野工場（三重県伊賀市）を視察し、梅酒製造の工程やこだわり、昨今の梅の情勢について担当者から説明があった。クラブ員は全員が梅農家であり、「自分たちが栽培する紀州産の梅を用いた商品の数々に生産者としてのやりがいを感じる」とコメントがあった。

26日は大阪府立環境農林水産総合研究所（大阪府羽曳野市）を訪問し、研究施設の案内と果樹に関する研究内容の紹介があった。研究内容には特定外来生物であるクビアカツヤカミキリについてのものもあり、西牟婁地域へ侵入した場合梅への被害が懸念させることから特にクラブ員の関心が高かった。

小谷会長は、「チョーヤ担当者から紀州産の梅にしか出せない甘みがある、と紀州産の梅を高く評価していただきこだわりを持って梅酒を醸造されていることが伝わってきた。生産者としてこのような熱意あるメーカーに安定供給ができるよう頑張りたい」と研修を振り返った。



チョーヤ（株）の視察

2. 稲成いちご研究会が先進地研修を実施

稲成いちご研究会（会長：宮本誠士氏）は、2月4日にいちごのスマート農業推進の取組を学ぶ先進地研修を佐賀県杵島地域で開催し、JA、振興局を含め8名が参加した。

佐賀県杵島農業振興センターの小川係長から佐賀県のいちご生産における新規就農支援対策やスマート農業への取り組み、佐賀県独自品種の「いちごさん」の生産や特性について説明を受けた。

その後、JAさが白石地区パッケージセンターに移動し、JAさかの森課長代理及び（株）ヤンマーの奥村専任部長より、国内初導入のスマート選果・パック詰めシステムについて説明を受けたのち、センター内の見学を行った。

会員は興味深そうに話に耳を傾けており、「様々な知見を得ることができたので、今後の自身の栽培・経営を進めていくうえで、大変勉強となった」との意見があった。



パッケージセンター視察の様子

3. アグリビギナー等技術経営研修を実施

新規就農者や若手農業者の栽培技術及や農業経営に関する資質向上を目的として、アグリビギナー等技術経営研修を2月4日と17日に2回実施し、延べ11名が参加した。

第1回は「露地野菜・梅の複合経営」について白浜町塩野の地域農業士、須本修平氏を講師に、経営状況の紹介と講師は場での栽培実習が行われた。研修では、須本氏が梅専作から露地野菜の栽培に挑戦した経緯、各種野菜の栽培管理のポイントについて講演があった。須本氏からは「良い品質の野菜を作るうえで重要なのは、栽培管理にどれだけ時間と労力をかけられるか。そのために単純作業や重労働を極力減らす工夫や投資は積極的に行うべき」、「試行錯誤こそが農業の楽しさだと思うので、何事にも失敗を恐れずチャレンジしてほしい」と参加者へのアドバイスがあった。



須本氏講演 露地野菜の栽培について（第1回）

第2回は「南高梅の栽培管理」について田辺市上芳養の指導農業士、村上達人氏を講師に、経営状況の紹介や園地・作業場の見学が行われた。令和6年度産の南高梅は産地全域で不作気味であったが、村上氏の園地では安定した収量があり、そのノウハウを学ぶべく参加した若手農家たちから、せん定のポイントや施肥管理、梅干しの加工等について多くの質問があり、活発な意見交換が行われた。さらに、「他の農家さんの園地や施設を見る機会は多くないので大変勉強になった」、「自分の栽培と比較して上手くいかなかった原因を考えて改善していきたい」とのコメントがあり、真剣に自身の経営と向き合う様子が伺えた。

今後も当課では、資質向上と地域農家との交流の機会として、本研修を実施していく。



村上氏園地 南高の栽培管理について（第2回）

VII 東牟婁振興局

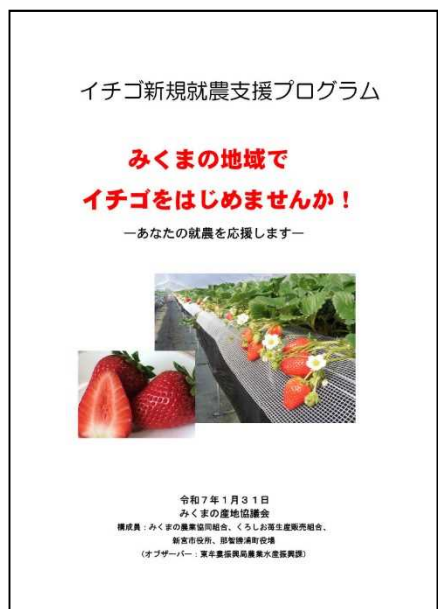
1. 重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】 ～みくまの産地協議会が第3回UIターン就農相談フェアに出展～

2月22日、第3回UIターン就農相談フェアが和歌山県JAビルで開催された。

当課では、みくまの産地協議会（構成員：JAみくまの、くろしお苺生産販売組合、新宮市役所、那智勝浦町役場）と協議し、いちご新規就農プログラムを改訂した。新規就農チェックポイントや新規就農の経営収支試算を更新したことで、より実践的に就農相談フェアでの説明に活用できる。

今回、出展したブースへは来訪者はなかったものの、今年度開催されたUIターン就農相談フェア全三回へ出展し、延べ4名が訪れた。

今後も当課は、みくまの産地協議会のオブザーバーとして、JAトレーニングファームを拠点とした新規就農希望者の受け入れ等を支援していく。



いちご新規就農プログラム（改訂版）



みくまの産地協議会での就農相談（7月）

Ⅷ 農林大学校

1. 卒業論文発表会を開催

2月13日に卒論発表会を開催し、2年生10人が2年間の調査研究の成果を発表した。

学生らが発表した内容は、ナシ黒星病防除における落葉処理の効果やゴトウリの生食用の収穫適期調査、鮮度保持剤がガーベラの日持ちにおよぼす影響など多岐にわたった。当日は緊張からか表情が硬い学生もいたが、全員が自らの取り組みを堂々と発表し、発表後は審査員長の鯨果樹試験場長らからの質問にも時折詰まりながら適切に回答していた。

研究テーマの中には複数年にわたって継続するものもあり、今後は現在の1年生が来年の発表に向けて調査や研究を進めていく。



発表の様子

2. 令和6年度卒業式

2月28日、卒業式を挙行之、川村校長から2年生10人に卒業証書を授与するとともに、成績優秀者に対する表彰では、最優秀者に県知事賞が授与された。

川村校長は式辞で、学生の2年間の成長を称えとともに、「新たな世界でスタートを切るわけですが、何事にも挑戦する気持ちを燃やしてください」と激励した。

答辞では、尾田大聖さんが「農林大学校で培った知識や技術、経験を糧に、それぞれの道で新たな挑戦をしていきます」と、卒業生を代表して新たな門出にあたっての決意を述べた。

卒業生の進路は、就農が3名（うち雇用就農1名）、JAグループやホームセンターなどに就職4名、その他が3名となっている。



卒業証書授与



卒業生答辞

IX 農林大学校就農支援センター

1. 令和6年度社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）修了式

2月7日、就農支援センターでは、社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）の修了式と営農計画発表会が行われた。まず、修了式では田辺産業技術専門学院の大平学院長より、昨年5月から9か月間の研修を修了した7名に修了証書が授与され、お祝いの言葉が贈られた。

続いて営農計画発表会では、修了生それぞれが就農支援センターでの猛暑の中での実習や農産物の収穫の喜びなどを思い浮かべながら、将来の目標とそれを実現するための5ヶ年計画についての発表や抱負を語った。

最後に就農支援センター鳥居所長をはじめとする職員全員が、研修時の思い出や修了生への思い、また、送る言葉や励ましの言葉を贈った。

なお、今回の社会人課程修了生7人のうち6人が、将来的には就農する予定である。



修了生への修了証書授与



営農計画発表会の様子

2. 技術修得研修（第2班）の営農計画発表会／閉講式

2月21日、就農支援センター研修館において、技術修得研修（第2班）の営農計画発表会および閉講式を開催した。

技術修得研修(第2班)は、10月から2月まで5か月間(計25日)、果樹・野菜・花きなどの栽培管理、病虫害の防除、農業機械の安全使用などについて、講義や実習を通じて、専門的な知識や技術を身につけた。営農計画発表会では、研修生(11名)がそれぞれの将来目標や抱負を発表し、意見交換を行った。閉講式では、研修日程の80%以上出席した研修生に対し、鳥居所長から修了証書を手渡し、「本研修で修得した基本的な知識や技術を経験として、さらに工夫を加えていただき、また、一人で悩まず健康に留意して農業で成功を収めてほしいと思います」と激励の言葉を贈りました。

修了生全員がそれぞれ就農準備を進めており、うち6名はすぐに就農する予定である。



研修生による営農設計発表



所長から研修生へ修了証書

3. 第3回UIターン就農相談フェアを開催

2月22日、和歌山県JAビルで第3回UIターン就農相談フェアを開催した。

今回、県相談ブースをはじめJA関係、各市町協議会、わかやま移住定住支援センターなどを含む、15団体17個の相談ブースを設け、県内外から26名の相談者が参加した。相談者からは「農業の経験は無いが技術は何处で学べるのか」、「農地はどのように確保するのか」、「どのような補助金があるのか」などの質問が寄せられた。

また、非農家出身で県農林大学校を卒業後、農業法人に就職。現在は第三者継承により有田市でミカン栽培をスタートした方を講師に招き、新規就農セミナーを開催した。参加者からは「これからの就農に向けて良い話が聞けた」などの声が聞かれた。

同フェアは来年度も3回（令和7年7月12日、11月29日、令和8年2月8日）JAビルで開催する予定である。



相談ブース

X 経営支援課

1. 令和6年度農業士・林業士・漁業士認定式及び感謝状贈呈式を実施

2月3日に農林漁業各分野で、県農林水産業の地域リーダーとして活躍している農林漁業者を、農業士、林業士、漁業士として知事が認定した。

今年度の認定者数は指導農業士12名、地域農業士22名、青年農業士9名であり、認定者を代表して和歌山市の貴志年伸氏が認定証を受け取った。

また、認定証の交付に先立ち、長年にわたり活躍された方々の功績に敬意を表して知事が感謝状を贈呈した。

今年度で年齢(65歳)による解除となる指導農業者は25名であり、那智勝浦町の塩崎一男氏が感謝状を受け取った。

今年度の認定・解除により農業士認定数が717名となった。今後も農業士の活動を魅力あるものになるよう努め、新規認定者の増加につなげていく。



記念撮影（感謝状贈呈者）

2. むらとくらしを考える会議を開催

2月12日に、県生活研究グループ連絡協議会（会長：後藤明子氏）と経営支援課が共催で、地域農山漁村の活性化を目的とした「むらとくらしを考える会議」を県自治会館で開催し、会員等81名が参加した。

今回の開催テーマは「食文化の伝承と地域食材の利活用」とし、参加者は、大阪夕陽丘学園短期大学名誉教授 青山 佐喜子氏の講演から、他府県で作られている家庭料理の特徴や食育活動の重要性などについて学んだ。

また、地域の活動事例紹介では、西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会会長 森川敏子氏が、新しい加工品の開発や新庄漁業協同組合女性部によるヒジキの藻場再生の取組などについて発表した。県からの情報提供では、万博推進課 古川課長補佐から「大阪・関西万博に向けた取組」について、当課 井上担い手育成班長から「県農林大学校の紹介」について情報提供を行った。

会場内では、各地方生活研究グループが持ち寄った手作り加工品、農産物の展示即売が行われ、参加者達は交流を深めた。

当課では、引き続き生活研究グループの活動を支援していく。



加工品、農産物の展示即売

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489